

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県 基山町

自治体名：佐賀県基山町

担当課名：基山町教育委員会 教育学習課

電話番号：0942-92-7980

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積22.15 km ²
人口	17,584人 (R7.2月末現在)
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	390人
部活動数	17 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

基山町は人口1.7万人を有し、学校については2小学校1中学校と1中学校区で成り立っている。町民のスポーツ活動に対する意識は高く、特に野球やソフトボール、バレーボールについては、地域の活動も盛んに行われており、大会等が通年で行われている。学校部活動についても、町民の関心が高いところがあり、部活動の環境維持については町の課題ともいえる。

現在のところ本町の部活動改革に向け、浮き彫りとなったのが以下の課題である。

・町内で中学生を対象としているスポーツクラブは、サッカーを除き、学校設置の部活動以外の種目である。

・基山町中学生のスポーツ活動の多くは部活動に依存している。

・教職員のライフワークバランスの視点から、部活動改革の必要性が高まっている。

・遠方のクラブに高額な費用をかけて通う生徒もいるが、町内でスポーツに取り組む生徒を育成できるシステムの構築が望まれる。

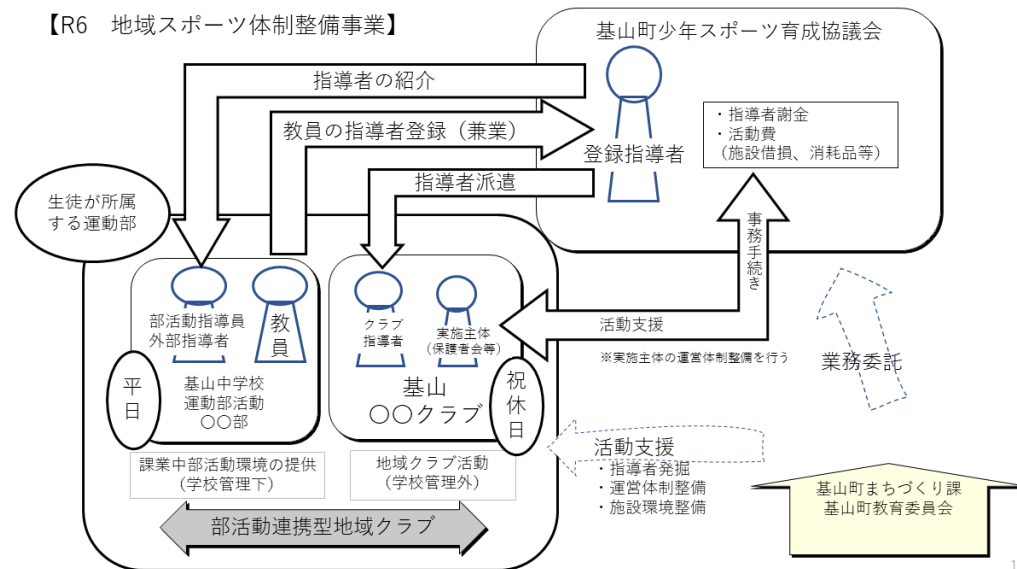
まずは学校部活動の中に地域指導者が参入していくことで、地域連携を進めていく。同時に、今後、社会体育連携型の活動のための運営主体を構築できそうな部活動を順次移行へと着手していくことを目指している。

また、中学生スポーツ団体を統括するための組織が必要となるため、昨年度より「基山町少年スポーツ育成協議会」が支援をし、今後の体制整備の構築を図ろうとしているが、今後の運営体制をどのようにしていくかが本町の課題といえる。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・教育学習課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

◎首長部局

・まちづくり課…少年スポーツ育成協議会の主管課

年間の事業スケジュール

令和6年4月	保護者へ部活動改革の説明
令和6年6月	少年スポーツ育成協議会総会
令和6年8月	第1回 中学生のスポーツの在り方検討会議
令和6年9月	対象部活動保護者への説明
令和6年10月～11月	地域スポーツクラブ運営実証期間
令和7年1月	対象部活動保護者検証会
令和7年1月	アンケート調査実施
令和7年2月	第2回 中学生のスポーツの在り方検討会議

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

取組として、地域連携のための中学校部活動支援として、「基山町少年スポーツ育成協議会」がつなぎ役となり指導者派遣や小学生の部との連携を行っている。第1段階 部活動指導員制度、外部指導者制度の活用による地域人材の介入、第2段階、地域指導者中心の活動の体制づくり、学校管理外活動の着手、第3段階 地域移行し持続可能な体制整備 の3段階で進めていくこととした。

取組の成果

地域連携のための調整役を少年スポーツ育成協議会が担い、実際の競技種目ごとの運営を競技種目の保護者が担うことになる。地域クラブとして自立するには指導者との連携、事務手続き等のマネジメント業務を各競技ごとで担う必要があるため、各競技種目保護者会に種目ごとの運営を依頼した。

明確になったのは以下のとおりである。

- ・指導の役割と運営の役割を分けることで、指導者の確保がしやすくなった。
- ・少年スポーツの経験がある種目は、事務手続きには滞りがなかった。
- ・少年スポーツがない競技種目については教員がマネジメントを担う場面もみられた。
- ・部活動から地域移行を考える11種目の保護者代表の意見では、顧問の先生との連絡調整や事務手続きに不安を感じている。

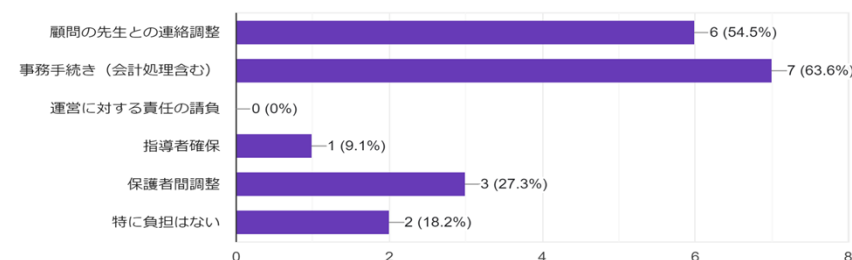
今後の課題と対応方針

- 公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。
- 次年度はコーディネーターを配置し、新たな運営主体とその役割についての検証を行う。

今回の事業に参加した学校部活動11競技の保護者代表のアンケート結果②

今回の事業で大変だったことは何ですか。（複数回答可）

11件の回答



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・「少年スポーツ育成協議会」からの指導者の派遣が可能な場合は派遣する。
- ・運営体制と指導を分けることで、地域指導者が参入しやすい環境を構築する。
- ・完全移行までは教員の兼業もあるが、責任の主体や運営を保護者等の管理体制に移すことで、教員の拘束時間を減らす。

取組の成果

平日の部活動より、クラブ活動時（休日等）の指導者の人数が確保できるようになった。その要因として次のことが挙げられる。

- ・運営を任せられるため、指導のみに従事できる環境であった。
- ・保護者の意識が変わり、少年スポーツの指導者にも指導の補助を依頼することができた。

また、兼業教員については学校管理下でない時間であり、休日は私事を優先できるようになった。

部活動・クラブ名	平日学校部活動				クラブ活動時		
	活動日	配置顧問	部活動指導員	外部指導者	活動日	指導者（顧問は兼業）	
野球	金曜のみ	1名	○		火、木、土、日	5名	
男子バレー	平日	3名	○		土または日	8名	見守り保護者を含む
女子バレー	平日	2名			土または日	3名	
男子バスケットボール	平日	2名	○		土または日	3名	
女子バスケットボール	平日	2名			土または日	2名	
男子ソフトテニス	平日	2名			土または日	3名	
女子ソフトテニス	平日	2名	○	○	土または日	22名	見守り保護者を含む
男子卓球	平日	3名	○		土または日	3名	
女子卓球	平日	2名	○		土または日	3名	
剣道	平日	2名			土または日	2名	
柔道	なし	2名		○	火、木、土	2名	
サッカー	平日	2名			土または日	3名	
バドミントン	なし				確認中	3名	
空手道クラブ	なし				確認中	3名	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 地域連携のための中学校部活動支援として、「基山町少年スポーツ育成協議会」がつなぎ役となり指導者派遣や小学生の部との連携を行っていく。
- 今後の持続可能な受け皿を模索するための検討を行う。

取組の成果

- 保護者や生徒の意見から、学校連携を密にできる運営体制を構築することが必要であることが明確になった。
- 「基山町少年スポーツ育成協議会」が事務局となり、各競技種目団体を取りまとめる役を担った。
- 中学校部活動と少年スポーツの連携がどの種目においても密になった。
- 中学生スポーツを統轄する団体の設置が必要であり、以下の役割を担うことが明確となった。
 - ・町内公共施設借用等の利便性の向上
 - ・運営者の情報交換の場
 - ・指導者の資質向上
 - ・適切な活動に対する指導・助言
 - ・有事の際の活動是非基準の設定
 - ・活動者の相談窓口
 - ・学校との連携窓口
 - ・指導者確保の支援等

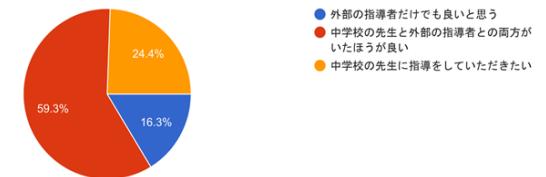
今後の課題と対応方針

- 次年度はコーディネーターを配置し、学校部活動との連携で成立ができる地域クラブの在り方を目指す。
- 競技種目を統轄する団体事務局の設立に向け、有効な方法を模索する。

部活動改革に関するアンケート（生徒・保護者）③

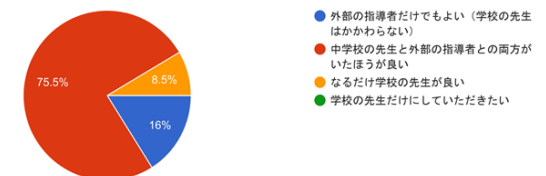
生徒

部活動指導に先生以外が入るようになったときにどう思いますか？
135 件の回答



保護者

今後、部活動に学校の先生以外が指導に入ることをごどう思いますか？
106 件の回答



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の事項

今回の事業は次の4点を念頭に置き実施した。

1. 令和8年度以降を見据え、学校管理外で運営する方法を模索する
2. 地域スポーツクラブに移行した上での利点を確認する
3. 地域指導者が参画しやすい環境を構築する
4. 地域指導の協力体制や競技ごとに特性を踏まえ、実情に応じた地域移行の方策を検討する

取組の内容

1. 実証期間 10月～11月
2. 実証人数 生徒 125人 指導者 65人（見守り保護者を含む）
3. 事業期間の週休日（土日）は学校管理外として運営をする（保護者等による運営）
4. 週休日は地域指導者を求めるが、現在の指導体制を鑑み、教員が兼業をして指導も可とする
5. 指導者謝金（2,700円、特殊業務手当と同等）の事業費からの支出
6. 指導者及び生徒の活動にかかる保険費用の事業費からの支出
7. クラブ運営に必要な消耗品、練習会場借用費などの補助を実施

今後の課題と対応方針

運営体制が自立していくことで、指導者の確保がしやすくなることから、次のような対応を次年度は実施する。

1. 運営主体を自立させるための検証（実証事業の活用）
2. 地域展開に向けた学校での取組（運営主体の移行促進）
3. 地域指導者の発掘・人材確保のためのシステムの構築
4. 地域クラブ運営主体の設置の検討

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・施設利用料の減免措置等の施行
- ・費用負担における保護者の考え方の調査

取組の成果

学校部活動から社会体育クラブに移行をした時点で、学校施設であっても利用料が発生するが、実証期間においては学校部活動と同等とした。

指導者確保のために指導者への財源が受益者負担も考えられる。多くの保護者は無償にとは考えておらず、そのような理由で保護者負担が増えたとしても子供に活動を継続させたい意向はある。

部活動改革に関するアンケート（保護者）

部活動や社会体育活動の指導者謝金等に対する考えをお聞かせください。
120 件の回答



もし、現在の費用負担（月額）が増額された場合はお子様を続けさせますか？
120 件の回答



今後の課題と対応方針

学校施設や公共施設を地域クラブに移行した際も減免ができるようなシステムを確立するため、条例や規則の改正等を検討していく。

また、平日を地域移行とした際には、部活動の時間帯がずれるため、照明を利用することもある。実費がかかるため、費用負担について検討していく。

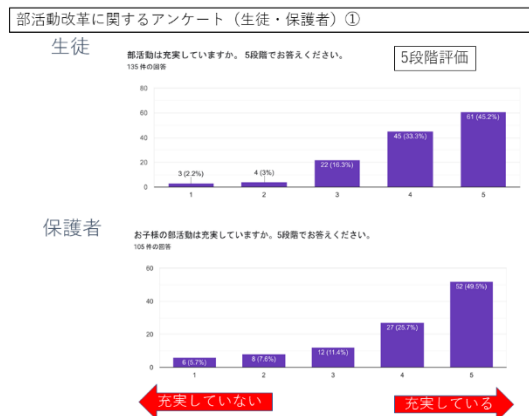
2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

現在の本町における部活動の実施状況については多くの生徒及び保護者の満足度が高い結果となっている。そのような状況下で部活動改革を進めていくためには、両者の理解を得ながら進めていくことが必要であると考えている。

一方で、学校教員については、休日の負担感が一番の課題となっている。この状況を改善していくために、指導の中心を地域に移行をしていくことや平日の顧問教員と生徒との関わり方などを検証していくことが、生徒及び保護者に影響なく進めていくために必要なことと考える。



●成果の評価

今回浮き彫りになったのが、少年スポーツの有無により競技種目ごとの運営体制が構築できるかどうかに差があったことである。部活動がこれまで教員の献身的な取組によって成立してきていることをきちんと説明をしていくことで、競技種目ごとの運営について保護者の方へシフトしていきたい。

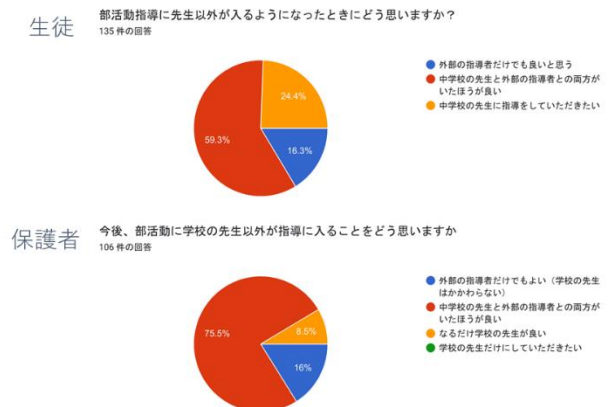
●今後に向けて

部活動がこれまで担ってきたのは、教育の一環としてのスポーツ指導であり、学校生活においても連携して指導が行えていた。アンケート結果から学校連携については多くの生徒と保護者ともに継続していただきたいと望んでいることがうかがえる。

本町の構想として、学校連携を密にして、これまでの部活動の良さを生かした地域展開を実施する方向性を見出していく。

まず、次年度はコーディネーターを活用して、運営主体体制と各競技種目ごとの運営体制の確立に努めたい。

部活動改革に関するアンケート（生徒・保護者）③



2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

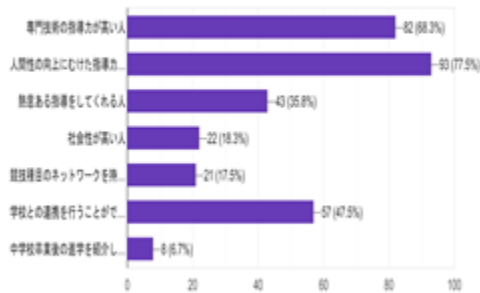
Q.どのような指導者に習いたいですか？
(生徒)

部活動指導に負担を感じるのはどの部分でしょうか？（最大3つまでチェックしてください）
25名の回答



Q.どのような指導者に習いたいですか？
(保護者)

部活動や社会体育指導等を習わせる際に指導者に願うことは何ですか？（複数回答可、最大3つ）
129名の回答



Q.部活動指導においてどのような部分に負担を感じていますか？（教員）

部活動指導に負担を感じるのはどの部分でしょうか？（最大3つまでチェックしてください）
25名の回答



Q.休日に地域クラブとして運営する際はどの程度関与しようと思いますか？（教員）



- 主たる指導者として関与（体制は変わってもこれまでと同様に指導する）
- 補助指導者としてできるだけ関与（なるだけ地域指導者に任せ、できる範囲で関与する）
- 技術指導以外の面でできるだけ関与（技術面は地域指導者に任せ、生徒指導面で関与する）
- 関与したくない

●参加者の声

中学2年生

専門的なことを教えてもらえてよかった。もっと技術を伸ばして試合で活躍したいと思います。

中学2年生

外部コーチだけだと心配なことが多い。練習とか誰に聞いていいかわからないときがある。

保護者

部活動が地域クラブになっても、勝つだけの目的ではやってほしくない。学校生活も見ていただく先生は必要だと思います。

教員

部活動地域移行は難しい部分がある。今の教員の現状を理解してもらうのも大事だと思う。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

運営団体や指導
者の選定、拠点
校の選定

令和6年

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和7年

地域クラブ活動
の開始

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

ステークホルダー

学校、基山町教育委員会 基山町少年スポーツ育成協議会
基山町まちづくり課

経過

令和3年度より本格的に検討会議を設置し、中学生スポーツを競技協会ではなく、少年スポーツとの連携を意識した計画で推進を進めてきた。令和5年度からは、基山町少年スポーツ育成協議会に委託をし、運営主体の検証を行ってきた。令和6年度は全運動部活動において検証活動を行った。

実施内容

10月、11月の2か月間で全運動部活動及び現在の中学生在籍する2種目で、地域クラブの実証事業を行った。指導者の確保しやすい環境や自立していくことを見据え、競技種目ごとの運営体制の検証を基山町少年スポーツ育成協議会を通して実施した。

実施にあたって生じた課題

実証期間の中で、少年スポーツでのノウハウがある競技種目については競技ごとの運営体制を構築できたが、少年スポーツがない競技種目については運営が難しかったため、支援が必要になる。

また、部活動の満足が高いことから、現在の体制を大きく変更せず、管理体制のみを学校からシフトし、教員がすべてを見ないでよいシステムや地域指導者を参入しやすい形にしていくことが必要である。

今後の展開

令和7年度は部活動と地域を連携させるコーディネータを配置し、現在「基山町少年スポーツ育成協議会」が担っている役割について中学生スポーツに特化した団体の設立の準備をする。その役割を明確にしていくことで、民間スポーツクラブと地域スポーツクラブをきちんと整理し、町立学校との連携を密にできるシステムの構築を目指す。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年 度	推進の内容
令和 6 年度 (移行準備)	・地域クラブ移行への保護者説明 ・地域指導者の参画促進 ・体制が整った学校部活動から休業日（土日等）を地域移行
令和 7, 8 年度 (移行促進)	・体制が整った学校部活動から休業日（土日等）を地域移行 ・学校管理外活動の安全管理体制の確立 ・学校連携型の地域スポーツクラブ活動体制の充実 ・運営主体の設置
令和 9 年度 (完全移行)	・すべての部活動において、休業日（土日等）は地域クラブ（学校管理外）で活動 ・学校部活動の再編

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【R7の取り組み】

